

## 第2号議案

### 2007年度事業報告

1. 学術集会，学術講演会等の開催
2. 学会誌その他の刊行物の発行
3. 学会認定医等の認定
4. 研究の奨励及び研究業績の表彰
5. 研究及び調査の実施
6. 関連学術団体との連絡及び協力
7. 国際的な研究協力の推進
8. 普及啓発活動
9. その他目的を達成するために必要な事業

## 第2号議案 2007年度事業報告に関する件

### 1. 学術集会、学術講演会等の開催

#### 1) 年次学術集会

第54回学術集会(会長:小田切 徹太郎)として2007年5月31日(木)~6月2日(土),札幌コンベンションセンターで開催した。テーマは「学問に対する意欲を高め,個性を育む」。

参加者数は,6522名,一般講演1094題,会長講演,基調講演,教育講演13題,シンポジウム6題を行なった。会場の狭さが懸念されたが,会場外のスペースを使うなどして収容に問題はなかった。今後,会場については,一昨年度からの参加者増加に伴い,横浜,神戸,福岡の3箇所とし,2010年福岡終了後は横浜,神戸の2箇所で開催することも検討された。日本麻酔科学会賞受賞講演(山村記念賞,若手研究者奨励賞),総務委員会社会保険専門部会企画,安全委員会企画,麻酔台帳の説明会,医学生・スーパーローテーター招待企画(広報委員会),AHA コアインストラクターコース(関連領域委員会),教育委員会リフレッシュャーコース(教育委員会)を行った。

#### 2) 支部の学術集会

各支部で合計8回の学術集会を開催した。

- ・ 第55回北海道地区学術集会(主催:森本 裕二) 2007年9月8日(土) 北海道大学医学部臨床大講堂
- ・ 第64回東北地区学術集会(主催:廣田 和美) 2007年9月15日(土) 青森県観光物産館アスパム
- ・ 第47回関東甲信越・東京支部合同学術集会(主催:崎尾 秀彰) 2007年9月22日(土) 栃木県総合文化センター
- ・ 東海・北陸支部第5回学術集会(主催:山本 健) 2007年9月1日(土)・2日(日) 金沢市文化ホール
- ・ 第53回関西支部学術集会(主催:豊田 芳郎) 2007年9月1日(土) 大阪国際交流センター
- ・ 第44回中国四国支部学術集会(主催:坂部 武史) 2007年9月22日(土) 海峽メッセ下関
- ・ 第45回九州支部学術集会(主催:須加原 一博) 2007年11月3日(土) 沖縄コンベンションセンター

#### 3) 教育講演の開催

第6回リフレッシュャーコースとして2007年6月2日(土),札幌コンベンションセンターで開催した。危機管理,痛み・ペインクリニック,循環系,呼吸器系,トピックスの5コース3講座で,実参加者数1,021名,延べ参加者数は3,198名であった。

### 2. 学会誌その他の刊行物の発行

#### 1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.21-No.2~Vol.22-No.1)を発行した。

#### 2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号(Vol.55-No.4~Vol.56-No.3)を発行した。

#### 3) 学会ニューズレター

社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを季刊で4号(Vol.15-No.2~Vol.16-No.1)を発行した。

#### 4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第55回学術集会抄録集およびプログラムを発行した。

#### 5) 会員名簿および年次報告

2007年度会員名簿および年次報告をホームページに掲載した。

#### 6) 教育講演テキスト

2008年開催の第7回リフレッシュコーステキストを発行した。

#### <新規認定医>

2007年度は、標榜医の審査時期にあわせて、2007年4月・7月・10月・2008年1月の計4回認定審査を行い、2007年度新規認定医審査合格者数は279名となった。

第1回申請者：	88名	合格者：	88名（2007年4月1日認定）
第2回申請者：	64名	合格者：	64名（2007年7月1日認定）
第3回申請者：	56名	合格者：	56名（2007年10月1日認定）
第4回申請者：	72名	合格者：	71名（2008年1月1日認定）

#### <新規専門医>

2007年10月4～6日、神戸ポートピアホテルで第46回麻酔科専門医認定試験が実施された。2007年度新規認定専門医試験合格者数は336名となった。

旧制度口頭・実技	受験者数：	5名	合格者：	3名	合格率：	60%
新制度3科目（筆記・口頭・実技）	受験者数：	342名	合格者：	271名	合格率：	79.2%
			実地試験対象者：	2名	（→実地試験の結果合格）	
新制度筆記	受験者数：	38名	合格者：	27名	合格率：	71%
口頭	受験者数：	13名	合格者：	11名	合格率：	84.6%
実技	受験者数：	10名	合格者：	9名	合格率：	90%
筆記・実技	受験者数：	9名	合格者：	6名	合格率：	66.6%
口頭・実技	受験者数：	6名	合格者：	3名	合格率：	50%
再認定（口頭・実技のみ）	受験者数：	4名	合格者：	4名	合格率：	100%

#### <新規指導医>

2007年11月22日、事務局で2007年度麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された。麻酔科指導医新規申請者は235名その内認定者は224名となった。

#### <新規認定病院>

2007年度は、申請状況に応じて4回認定審査を行い、2007年度新規認定病院数は56施設となった。

第1回申請施設：	13施設	合格施設：	13施設
第2回申請施設：	16施設	合格施設：	16施設
第3回申請施設：	14施設	合格施設：	14施設
第4回申請施設：	13施設	合格施設：	13施設

#### 2) 認定医等の資格更新審査

2008年2月18日、事務局で2007年度麻酔科専門医更新予定者の審査会が開催され、麻酔科専門医更新予定者は418名となった。また同日麻酔科認定医更新申請者の審査会が開催され、認定医更新予定者は12名となった。

専門医更新申請者：	554名	認定者：	418名
特例申請者	：	48名	
不認定者	：	12名	
資格喪失者	：	88名（辞退者（未提出者も含む）76名、認定医更新12名）	

#### <認定病院更新>

2008年2月18日、2007年度麻酔科認定病院更新申請施設の審査会が開催された。麻酔科認定病院更新申請施設は70施設であり、63施設の認定となった。

## 2. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞3賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞）の2007年度受賞予定者の選考を行い、以下のとおり決定した。

### 1) 山村記念賞

小幡 英章（群馬大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座麻酔神経科学 講師）  
「慢性疼痛におけるセロトニンの役割」

### 2) 青洲賞

門井 雄司（群馬大学医学部附属病院 手術部 准教授）  
「糖尿病患者における麻酔中の脳循環」

### 3) 若手奨励賞

（基礎）

水島 敏行（大阪府立呼吸器アレルギーセンター 麻酔科）  
「一次知覚ニューロンにおけるERK5の活性化は急性侵害性疼痛に関与する」

（臨床）

該当者なし

### 4) 社会賞

井上 宏司（東海大学医学部外科学系呼吸器外科学教授）  
・気管支ブロッカー付チューブの開発と研究により、片肺換気の施行を現実化し、胸部外科手術における安全な麻酔管理の実現に貢献したため

## 4. 研究及び調査の実施

### 1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔関連偶発症例調査の解析結果発表（・麻酔関連偶発症例調査からみた小児麻酔の実施状況 麻酔 2007;56:93-102、・硬膜外麻酔ならびに脊髄くも膜下麻酔に伴う神経損傷：麻酔関連偶発症例調査 2004 の集計結果より 麻酔 2007;56:469-480、・手術室で発生している脳血管障害の背景因子、原因、予後：麻酔関連偶発症例調査 2004 の集計 麻酔 2007;56:965-976、・危機的偶発症発生率に低下傾向：危機的偶発症に関する麻酔関連偶発症例調査 2005 の速報と最近5年間の推移 麻酔 2007;56:1433-1446）。

偶発症例調査 2007（2007.1.1～2007.12.31）：麻酔科認定病院1092施設を対象に行い、799施設から回答があり、回収率73%であった。麻酔台帳からの提出は266施設(33%)、紙での提出は524施設(66%)、無回答が9施設(1%)であった。また、麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2007については、CDを配布せずホームページから最新版をアップデートし回答する方式とした。麻酔偶発症例調査 2007、麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2007、周術期肺血栓塞栓症発症調査を実施した。

## 2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックした。

## 3) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する調査

適応外の薬剤の要望、薬物乱用者の回復に向けた対応策を検討した。

## 4) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

Respiratory tract humidifiers for medical use — Particular requirements for respiratory humidification systems (医用呼吸回路加湿器—呼吸加湿システムに関する個別要求事項を翻訳した。

## 5) Closed Claims Project の推進と研究

インシデントレポートの収集および分析し、予防策を普及した。

## 6) 周術期肺血栓塞栓症発症例調査

わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院において、2007年の周術期肺血栓塞栓症（以下 PTE）に関するアンケート調査を行なった。

## 7) 厚生労働省科学研究事業

### (1) 複雑性局所疼痛症候群（CRPS）の診断基準作成と治療法に関する研究

真下 節主任研究者による研究で3年計画の3年目であり報告書を提出した。

### (2) 手術室における安全性と透明性の確保に関する研究

並木 昭義主任研究者による研究で、手術室における映像・音声等の記録、手術室内の役割について調査し報告を行った。

### (3) 歯科医師の医科麻酔科研修のガイドライン改訂に関する研究

一戸 達也主任研究者による研究で当会との共同研究であった。今年度改訂版を報告書として提出した。

### (4) 危機的出血に対する輸血ガイドライン導入による救命率変化および輸血ネットワークシステム構築に関する研究

稲田 英一主任研究者による研究で3年計画の1年目であり、現状調査のためアンケート調査の実施、ポスター等の作成を行った。

## 6. 関連学術団体との連絡及び協力

### 1) 登録・派遣

日本学術会議，日本医師会，日本医学会，厚生労働省医道審議会標榜医審査会，日本専門医認定制度機構，大学評価・学位授与機構，日本外科学会，外科系医学会社会保険委員会連合，外科関連協議会，日本救急医療財団，日本蘇生協議会，3学会合同呼吸療法士認定委員会，医療機能評価機構，骨髄移植推進財団等に委員を派遣し，各々の目的と事業に合わせ連携・協力した。

### 2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム，日本臨床麻酔学会市民公開講座，社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定，財団法人日本救急医療財団「救急の日 2006」等，バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等，関連協力団体の学術集会および講習会，市民公開講座等を協賛・後援した。

## 7. 国際的な研究協力の推進

### 1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣した。また，今年度の役員を推薦し，2008年3月ケープタウンで開催された学会時の理事会で，Standing Committeeとして Education 担当（澄川耕二氏），Safety & Quality of Practice 担当（森田潔氏），Constitution 担当（中田善規氏）が日本から選出された。Specialty Committeeとして Obstetrics 担当（照井克生氏），Pediatrics 担当（羽鳥文麿氏），Pain Relief 担当（細川豊史氏）が選出された。Working Party の Manpower Taskforce に山蔭道明氏が選出された。

### 2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会（AACA）

President（花岡一雄氏），Treasurer（稲田英一氏）を派遣した。2010年日本大会開催準備のために AACA 実行委員会を設置し，具体的な事業計画を立案した。

### 3) 留学生受け入れ奨励

2007年度日本への留学希望者を通年に渡り募集した。

### 4) アジアン・シンポジウム

2006年度開催のアジアン・シンポジウムの企画立案，運営を行った。

## 8. 普及啓発活動

各支部学術集会開催時あるいは10月13日「麻酔の日」近辺の日程で，「麻酔」をテーマに計7回の市民公開講座を開催し，正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行った。2005年度から取り掛かった小説「麻酔科医」の発刊，また，麻酔博物館の企画を行い，2009年度開設に向けて検討中である。

## 9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって，実務を執行する専門部会を組織し，積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

また，本年度は，有限責任中間法人日本歯科麻酔学会と合同で，「三井記念病院および日本大学歯学部歯科麻酔科の麻酔科研修に関する2学会合同特別調査委員会」を設置し，三井記念病院および日本大学歯学部歯科麻酔科の医科麻酔科研修に関する2学会合同特別調査の報告書作成を行った。

### 1) 総務委員会

本年度は，中期・長期計画の作成，診療報酬についての対応，公益法人化に向けての準備・情報収集，麻酔台帳のオープンソース化および麻酔モニター機器メーカーとの提携，女性医師キャリア推進のための提言作成，周術期管理チーム推進事業，事故調査委員会に関するあり方，心肺蘇生法のあり方を検討した。その他，副会長選任選挙，学会内部の総務，事務局内の総務に関わる事項も審議・執行した。昨年度からの懸案事項であった新システム導入については，システムの仕様書を作成し，公開入札の末，キヤノン IT ソリューションズ株式会社に決定した。神戸事務所の4月開設に伴う移転準備，職員の労務管理について社会保険労務士をいれ強化した。

将来構想専門部会では，中期・長期計画，短期計画の確認を行った。

社会保険専門部会では，平成20年度診療報酬改定に向けて改訂案の検討，厚生労働省，外保連への

要望、折衝を行った。また、会員からの診療報酬に関する質問の対応、学術集会時のシンポジウムを行った。

麻酔台帳ワーキンググループは、現在開発されている麻酔台帳をオープンソース化し、自動麻酔記録装置を開発している5社に依頼し自動的に麻酔台帳にデータが取り込めるシステムを各社で開発を依頼した。

女性医師キャリア推進ワーキンググループでは、女性医師のキャリアを推進するための提言について検討した。

周術期管理チーム検討ワーキンググループでは、今年度厚生労働省科学研究特別事業として採用され「手術室における安全性と透明性の確保に関する研究」と題して推進した。ハード面として、手術室内の映像情報、音声情報、生体情報を全職種が手術室内で共有できるかどうかを調査した。ソフト面として、手術室内で診療行為にかかわる多職種（外科系医師、麻酔科医、看護師、薬剤師、臨床工学技士等）がチームとして機能するためにはそれぞれの役割分担が重要であり、その点を明確にするために麻酔科医と看護師の役割について特化し調査した。調査結果と分析をあわせて報告書として提出した。

公益法人設立準備ワーキンググループでは、平成20年12月から始まる新公益法人制度に向けて定款および関連規定の変更等を行った。

事故調査に関するワーキンググループは、2007年10月に厚生労働省より、“診療行為に関連した死亡の死因究明等の在り方に関する試案（第二次試案）”が公表されたのを受け、診療に関連した死亡事例について、死因を究明・分析して真相を明らかにし、再発防止に役立てるよりよい社会システムの構築を検討することを命題として立ち上げられた。第二次試案への意見作成、緊急市民公開講演会を開催した。

ITC 設立準備検討ワーキンググループでは、アメリカ心臓協会（AHA）の国際トレーニングセンター（ITC）の設立に向け検討を行った。

2007年度選挙については、副会長選出選挙を実施した。

## 2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に関する事項について協議、答申、執行した。

- ・予算書・決算書の作成
- ・貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・事業費・管理費のバランスおよび支部収支計算書と事業報告のチェック
- ・基金・引当金の設定と管理
- ・特別会計の学術集会会計、各支部会計に関する連結決算・予算表の作成

## 3) 学術委員会

本年度は、機関誌の編集・発行に関する事項、学術集会の運営に関する事項、麻酔科学用語に関する事項、学会賞に関する事項等を中心課題として協議、答申、執行を行った。各事項の調査、審議は内容に応じて専門部会に付託した。「Journal of Anesthesia」が2008年度から同社の引用文献用データベース Web of science に掲載され、この web サイトからの引用で2009年度 Impact Factor が付与されることが決定した。2009年に付与される Impact Factor はこれから掲載される2007年度、2008年度の「Journal of Anesthesia」誌の引用数によって決定される。

機関紙専門部会では、Journal of Anesthesia の引用を増やすため、昨年度に引き続き JA シンポジウムの企画運営、査読システムの導入、学術集会企画専門部会では、第56回学術集会プログラムの検討学術集会の運営の方針について検討した。

## 3) 倫理委員会

本年度は、禁煙宣言の検討、医療の倫理に関する事項を検討した。麻酔薬の盗難の件について倫理調査委員会を結成し、審議を行った。

#### 4) 教育委員会

本年度は、新認定制度実施に伴う問題点の整備、教育ガイドライン改訂版完成、第7回リフレッシュャーコースの実施、第8回リフレッシュャーコースの立案等を行った。関連領域検討委員会より、専門医新規・更新申請資格に心肺蘇生法の講習会必須化の提案があり、検討した。

認定審査委員会は認定医、専門医（第46回専門医認定試験実施）、指導医、認定病院の審査、認定を行った。

#### 5) 安全委員会

本年度は、麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議、答申執行した。委員会は各ワーキンググループの相互の事業内容をトータルに把握し、国民のためのよりよい安全な医療を提供することを目標とした。医療安全における問題の所在をあきらかにするために全国規模の実態調査を実施し、医療現場に向けた現状のアナウンスおよび改善・防止策のフィードバックを行った。データベース（統計調査）事業では、麻酔偶発症例調査、肺塞栓アンケートの実施・回収・解析、CCP (Closed Claims Study から Closed Claims Project に名称変更) 報告書の検討を行った。ハード（機器）関連対策事業では、麻酔器の保守点検、定期点検の法律化の周知徹底、機器故障情報提供のホームページによる公表、JIS原案（加湿器）の作成を行った。ソフト（手技）関連対策事業では、必要なガイドライン、危機的出血に対するガイドライン、医師賠償責任保険のあり方について検討した。薬剤関連事業では、薬剤乱用防止施策の検討（ポスター改訂版作成、薬剤依存症に関する相談内容の検討、アンケート調査の実施）、医薬品の保険適応要望を行った。以上4つの事業への取組みにあたっては、6つのワーキンググループ（偶発症例調査ワーキンググループ、麻酔機器安全対策ワーキンググループ、肺血栓塞栓症ワーキンググループ、CCP ワーキンググループ、麻酔手技における事故防止対策調査ワーキンググループ、医薬品適正評価ワーキンググループ）を組織し事業を振り分けた。

#### 6) 国際交流委員会

本年度は、国外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行う。AACA2010に向けてアジア諸国との交流をはかるため、第54回学術集会時にアジアン・シンポジウムを開催した。WCA 役員候補者の推薦、ホームページの英語版の作成を行った。Trauma care2008 実行委員会についてはラスベガス大会、ASA での広報活動、プログラムを検討した。AACA2010 については、プログラム作成委員会の開催、ASEAN 麻酔学会、南アジア麻酔学会での広報活動を行った。

#### 7) 関連領域検討委員会

本年度は、麻酔科医の活躍の場として、関連領域を紹介し麻酔科医のフィールドの広さを多くの医師、学生に周知し、学会としてよりよい業務環境を整える目的に沿って事業を行った。各領域での現状、問題点を挙げた。第54回学術集会でこれらの領域についてシンポジウム形式で公表した。専門医に於ける2010年度麻酔科専門医新規認定試験から受験日から遡る過去5年以内にAHA-ACLSプロバイダーコースの受講終了を受験必須資格項目とすること、2010年度麻酔科専門医資格更新認定から、更新日の過去5年以内にAHA-BLSコースもしくは日本救急医学会認定ICLSコースの受講、またはAHA-ACLS、AHA-PALSのプロバイダーあるいはそれ以上でもよいことを更新必須条件とすることを提案し、理事会で承認を得た。各領域での人材育成のため、教育ガイドラインに関連領域項目を追加した。

救急医療・心肺蘇生法専門部会では、下記の日程で会員を中心としたコース受講機会の拡大を目途として開催した。



○AHA BLS プロバイダーコース (計 9 回開催)

2007 年 4 月 14 日(土), 2007 年 5 月 12 日(土), 7 月 14 日(土), 8 月 11 日(土), 9 月 8 日(土),  
11 月 10 日(土)

2008 年 1 月 12 日(土), 2 月 9 日(土), 3 月 8 日(土)

開催場所: レールダルメディカルジャパン株式会社トレーニングセンター

○AHA コアインストラクターコース

2007 年 6 月 2 日(土)・・・第 54 回日本麻酔科学会学術集会時に開催

集中治療ワーキンググループでは、学術集会における集中治療領域の紹介、集中治療領域を牽引する人材の育成のため、教育ガイドラインの項目を確認した。

ペインクリニック領域ワーキンググループでは、学術集会におけるペインクリニック領域の紹介、麻酔科領域におけるペインクリニックの分野のあり方について検討した。

緩和医療領域ワーキンググループでは、麻酔科医による緩和医療教育への関与に関する実態調査の検討、ケタミンの麻薬指定への対応を行った。

産科麻酔領域ワーキンググループでは、産科麻酔の教育・研修、周産期医療センター麻酔科人員設置の要望、帝王切開術の脊髄くも膜下麻酔診療報酬の要望、産科麻酔関連の国際学会および委員会との交流について検討した。

小児麻酔領域ワーキンググループでは、小児麻酔の教育・研修、小児麻酔の臨床実態調査について検討した。

心臓麻酔領域ワーキンググループでは、心臓血管麻酔の臨床実態について検討した。

8) 広報委員会

本年度は、第 54 回学術集会時、医学生、スーパーローテータ企画の実施、ニューズレターの編集・発行に関する事項を行った。麻酔博物館企画委員会との連携を諮り、麻酔の日に毎年行っていた新聞広告への寄附を博物館への費用に充てた。また民間医局主催による診療科別プレゼンテーションに下記の日程で参加し、麻酔科ブースを出展した。

2007 年 4 月 7 日 医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー

場所: 大阪 参加者: 1019 名 麻酔科ブース来訪者: 47 名

2007 年 5 月 27 日 研修医のための後期研修合同セミナー

場所: 横浜 参加者: 430 名 麻酔科ブース来訪者数 20 名

9) 支部管理委員会

支部管理委員会は、支部事業、会計の運営を円滑にするために各支部での問題点を整理した。公益法人取得に向け、具体的な外形基準の整備について周知した。

10) 麻酔博物館企画委員会

麻酔博物館企画委員会では、会員から麻酔に関する機器、器具、書類の収集を募り、今後の方針を検討した。

11) ハラスメント対策委員会

ハラスメント対策委員会では、様々なハラスメントに関する対策を行った。

以上